

平成28年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度と比べて、国語科全般にわたり基礎的な学力が身に付いてきた。特に、漢字の読み書きの力が上昇している。
- ・話し合い活動を学習の中に積極的に取り入れることで、「話す・聞く」力が身に付いてきた。

(2) 課題

- ・学年によって、「文の構成」、「登場人物の心情」等に課題があるので、課題解決に向けて授業を工夫していく必要がある。
- ・「読む」力が目標値に達してない学年がある。読書指導なども含め、「読む」力を付けていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率の変化（経年比較）

	平成28年度結果	平成27年度結果	平成26年度結果
第4学年	達成率±0		
第5学年	達成率+4.5	±0（第4学年時）	
第6学年	達成率+1.8	+9.9（第5学年時）	±0（第4学年時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
国語に対する関心・意欲・態度は、 <u>目標値を若干上回っている。</u> ICT機器を効果的に使いながら、児童の関心・意欲を高める授業をしていく必要がある。	目標値を若干上回っている。 話し合いの放送を聞いた上で、内容に合う解答を自分の言葉で書き入れる問題ができなかった。	目標値を若干上回っている。 中にはほとんど書いていない児童もいた。	目標値を若干下回っている。 特に、説明的文章の達成率が低いので、文章構成を的確にとらえる力を身に付けさせていく。	目標値を若干上回っている。 基本的な漢字の読み書きについては、目標値より高いが、国語辞典の使い方、主語述語、ローマ字については、指導を強化していく必要がある。

② 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
国語に対する関心・意欲・態度は、 <u>目標値を大きく上回っている。</u> 今後もICT機器を効果的に使いながら、児童の関心・意欲を高める授業をしていく必要がある。	目標値を若干上回っている。 話の内容を聞いてメモをとったり、計画的に話し合ったりすることに課題がある。	目標値を上回っている。 中にはほとんど書いていない児童もいるので、書くことへの抵抗感や苦手意識がなくなるよう、『書くって楽しいね』の教材を有効的に活用した指導を充	目標値を上回っているが、個別に見ると、登場人物の心情や文章を的確に押さえながら読み取ることや、文章構成を正しく捉えることに課題がある。 説明的文章の要旨をとらえて読むこと、文学的	目標値を大きく上回っている。 基本的な漢字の読み書きについては、目標値よりかなり高いが、修飾語の使い方等の言語事項については、今後も指導を強化していく必要がある。

		実させる必要がある。	文章では、表現の良さや表現の効果を感じ取って読み味わう力を身に付けることが必要である。また、文章構成を的確に捉える力を身に付けさせていく。	
--	--	------------	---	--

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
読み聞かせの時間を充実させ、読書意欲を喚起する。感想を述べたり、紹介文を書いたりして、互いに本に親しむようにする。日常のことを、日記等を通して書く習慣を付ける。	姿勢良く、相手を見て話を聞くことや順序よく話すよう指導する。また、事柄の順序を考えながら、聞いたり話したりできるようにする。話し方・聞き方の定型を指導し、それに慣れるようにする。	身近な事柄を簡単に説明する文章を書かせることで、抵抗感がなくなるよう書くことを習慣にする。簡単な文章構成メモを作り、読み手も意識して順序よく文章が書けるようにする。	時間的な順序を考えながら場面の様子を想像して場面に合った読み方ができるようにする。内容を質問しながら理解を深めていく。本に親しみ、自分で楽しむだけでなく、友達に紹介する学習も取り入れる。	新出漢字は、音訓両方の読み、それを使った言葉や短文作りの学習をすることで文章の中で正しく使えるようにする。また、漢字学習は恒常的な反復練習をする。

#### (2) 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
朝読書や読書の時間を有効に使う。「おすすめの本」の紹介、子ども同士の読み聞かせ等を行い、本に親しむ機会を多くする。書きたいことを整理しながら順序よく書く機会を設け、書くことに対する関心を高める。 <u>さらに、ICTを効果的に活用したり、課題について話し合いをするなどの学習を工夫して関心・意欲を高めていく。</u>	大事なことを落とさずに話すことができるよう、メモを書き、推敲してから話すようにする。また、適切な言葉で話すよう指導をする。自分の考えと比べながら、大事なことをメモを取りながら聞く習慣を付けさせる。	書く相手や目的を明確にしながら、段落相互の関係を意識して書くように指導する。また、間違いを正したり、より良い表現に書き直すなどの推敲を児童自身でできるように指導する。 <u>さらに、作文が苦手な児童を減らすように、短時間で楽しく書く活動を取り入れる。</u>	物語では、繰り返し音読に取り組み、登場人物の気持ちや場面ごとの様子を正しく読み取ることができるようにする。説明文の読解では、 <u>段落相互の関係をとらえさせ、「事実」と「意見」に分けて読むことを指導する。</u>	基礎・基本の時間を使って漢字練習を行い、読み書きの確実な定着を図る。国語辞典、漢字辞典の使い方を確実に身に付けさせ、いつでも調べられるような環境をつくる。また、地名や人名などがローマ字で読み書きできるように指導する。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
<p>朝読書の時間を継続するとともに、図書室を積極的に活用させることを通して読書の楽しさを感じるようにする。新聞の記事などを題材に朝のスピーチを有効的に活用して、「話す・聞く」学習に関心を高めるように努める。さらに、ICTを効果的に活用したり、課題について話し合いをしたりするなどの学習を工夫して関心・意欲を高めていく。</p>	<p>スピーチの内容を自分の言葉でまとめたリ、簡単にメモしたりする活動を日常的に行う。相手の意見の大事なことはメモを取りながら聞くことを習慣化させる。ディベートなどの討論では、スピーチメモによる効果的な話の組み立てを考えさせる。また、タブレットを使い、自分が話している様子を客観的にとらえさせ、より良い話し方ができるように工夫する。</p>	<p>書くためのスキルを計画的に指導する。文章の構成・記述の仕方を重視し、自分の考えを明確に書くようにする。言語事項との関連を図りながら、自分で推敲したものをさらに相互に推敲させ、助言し合うことによって自分の表現の参考にするよう指導する。さらに、作文が苦手な児童を減らすために、短時間で楽しく書く活動を取り入れる。</p>	<p>物語をはじめとするいろいろな種類の本を目的に応じて読むように指導する。登場人物の心情を表す言葉にサイドラインを引かせたりノートに書かせたりすることで読み深めるようにさせる。また、キーワードを意識させながら要約する学習を取り入れていく。</p>	<p>漢字の読み書きは反復練習を継続する。熟語などは意味を考えながら覚えさせ、学習した漢字を日常的に活用するよう指導する。語句の役割や主述関係・修飾被修飾関係などは場面を適切にとらえて繰り返し指導する。</p>